

# 全国各地から集まる仲間たちと切磋琢磨しモチベーション高く学べる環境を提供。



肥前精神医療センター 臨床研究部長

## 上野雄文

### 精神科研修といえば“肥前”

当院は昭和20年、国立肥前療養所として開設されました。当時の常識では考えられなかった精神科病棟の開放にいち早く踏み切り、精神科医療の進歩に貢献する人材を輩出してきました。

今では東京ドーム6個分の巨大な敷地に“児童思春期”、“精神科スーパー救急”、“精神科リハビリ”、“地域社会精神医療”、“アルコール・薬物依存”、“認知症”、“神経症”、“精神科身体合併症”、“司法精神医学”など、現代精神医療に求められるほとんどの機能を備えている国内有数の精神医療機関に発展しています。

診療活動だけでなく、研究・教育・研修においても長い歴史と豊富な実績があります。昭和50年代からレジデント（後期臨床研修医）の受け入れを開始。学閥に関係なく全国から多くの方が研修しています。約1年で精神保健指定医取得に必要な症例が経験できるのはもちろんのこと、大学医局からもモチベーションの高い若手医師が自ら希望して来るほど一般の精神病院や大学ではなかなかできない研鑽を積むことができます。

### 各自の希望に応じたオーダーメイド研修

当院の研修の特色として「オーダーメイド研修」があります。人にはそれぞれに大切にしたい思いがあり、各自の強みや弱み、専門医取得後の進

路もさまざまです。そこで、年度初めに1人1人と話し合い、標準的なプログラムをベースに年度ごとの重点課題や目標を個別に決めています。将来、児童、司法、認知症、嗜癖などの専門領域、あるいは臨床研究に進むために必要な研修をオーダーメイドで提供しています。また、半期ごとの話し合いでは、到達度だけでなく、健康状態や要望を確認し、安心してプログラムを継続できるようにサポートしています。

こういう研修ができるのも全国から多くのレジデントが集まってくるからです。地域性から北部九州出身者が多いものの、過去15年間では37の大学から120人以上の若手医師を受け入れてきました。同期も多く、研修だけでなく、飲み会や食事会などでも親睦を深めています。研修後、進路が違っても、全国各地に情報交換ができる仲間ができるのも当院での大きな魅力です。

### ITを利用した研修システムを採用

平成22年には地上3階建の医師養成研修センターが完成しました。各種講演会や研修会が開催できる大ホール、症例検討会やカンファレンスを行うセミナールームのほか、最新設備を備えた精神科医師養成のための専用施設です。電子会議室が常設されており、開催される研修会などの内容は全国の機構病院ほか14施設にリアルタイムで発信

## 指導医の声1

## 新専門医制度にも対応。充実したプログラムでじっくり学べます。

当院の大きな特徴は充実した研修体制です。規模を縮小したり、専門分野を絞ったりする病院も多かったのですが、当院だけで研修が完結できる環境をあえて残しました。認知症、児童、依存症といった専門分野を削らず、救急病棟や重度心身障害者の「動く重心」の病棟がある点も特徴です。慢性期の病棟も2つあり、精神医療で重要な長期の患者さんにも対応しています。急性期の患者さんが退院できず、どうなっていくのか。そういう点もぜひ診てほしい。研修は正直、売上げにはならず、個人の実績にもつながりませんが、ずっと研修を大切にしてきました。

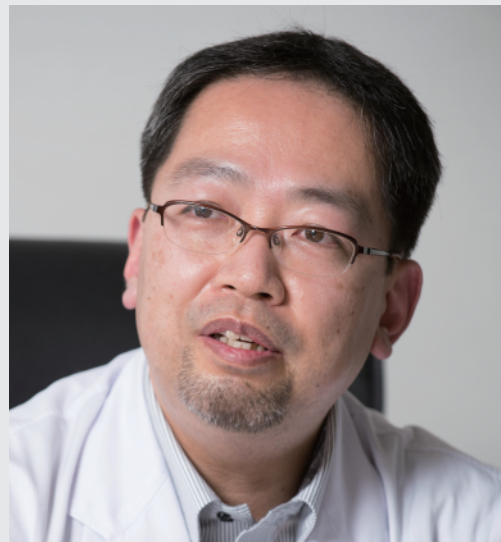
ただ、最初から大所帯だったわけではありません。私が来た20年近く前は行動療法で有名な先生がいらして、それを学ぶために来る人が多かったんです。約10年前から後期研修に力を入れ、現在のシステムをつくりあげてきました。

オーダーメイド研修が当院の特徴ですが、それも全国からたくさんの方が来るからこそです。各自の要望に応じていくうちに、今のプログラムに到達しました。新専門医制度にも対応していますが、長年の実践と試行錯誤からでき上がったものです。当院では昔から臨床を一生懸命や

る先生が多かったのですが、そこに研修が加わることにより、人がどんどん増えました。レジデントが少ない時期は、常勤医が患者さんの診療に追われていました。しかし、当院の研修が評価されるにつれ、レジデントが増え、患者さんを診てくれるようになり、結果、常勤の先生に余裕が出てきて、医師養成に目が向き、研修がさらに充実するという好循環が生まれたんです。上野先生が来られてからは研究にも力を入れ、研究に関わるレジデントが増えました。

研修はある程度、成果が出ていますが、指導医が与えるのではなく、レジデント自身が提案してつくりあげていくような研修に移行していきたいと考えています。将来、当院のレジデントマニュアルが全国の精神科を学ぶ人たちに役立つようになればいいなと思っています。

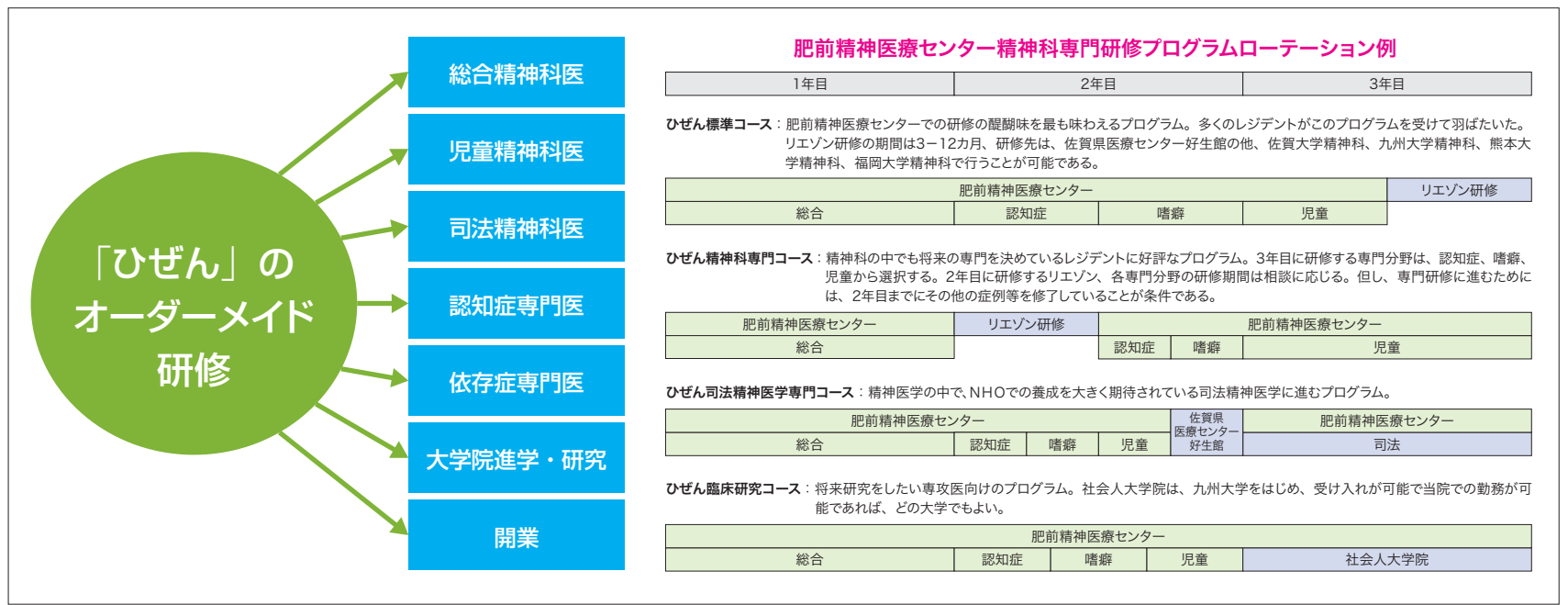
精神科医は患者さんの話をよく聞き、共感することが大事です。以前、ある先生が「患者さんにあわせていろいろな役を演じなければいけない」とおっしゃっていました。自分を臨機応変に変えていかないと、患者さんとうまく接することができない。私自身、まだまだですが、そうできるように努めたいです。精神科医療は、一般身体科と比べて、医学だけでなくさまざまな視点か



肥前精神医療センター 精神科医長  
岩永 英之

ら診ていかないと改善・解決しないところがあります。それだけ奥深い医療だといえるでしょう。

最近の若い人たちは資格や経済面にとらわれがちですが、患者さんのためにできることは何か。ちょっと遠回りしても腕を磨き、そのプロセスの中で資格やお金がついてくる。そういうふうと考えてほしいと思います。精神科にはガイドラインはあるものの、答えがない。1人1人のオーダーメイドな医療にならざるを得ないんです。うまくいかない場合も一生懸命考えていく。自分で考える力を大事にしてほしいですね。



されます。また、他施設の症例検討会などにも当院の会場から参加・試聴できる双方向システムを構築。九州にいながら、東北、関東、中部、沖縄など異なる文化圏の精神科医療が垣間見られるうえ、各領域の専門家が参加するため、質の高い貴重な場を経験できます。こうした環境は画期的で「ITを用いた多施設共同医師養成システム」として注目されています。

平成27年5月からは電子カルテを導入。電子カルテの項目に入力するだけで、臨床に重要な視点や忘れがちな部分が意識できるよう、研修を意識してつくりこみました。指導医をはじめ、他の医師の診療や他職種の患者さんへの関わりが瞬時に見られます。また、専攻医の治療の様子を指導医にも見てもらえるので、診療の質をあげる点でも有効に機能しています。

#### 偏見と闘いつつ患者さんに寄りそう医療を

精神医療は患者さんと長く関わっていく医療です。これは持論ですが、ある意味で糖尿病や高

血圧と同じ疾患であると考えてほしい。薬を飲んでいればドンと悪くなることはない。しっかり服薬してコントロールしていけば、脳出血や脳梗塞を予防できるのと同じです。そういう認識を国民全体に持ってほしいですね。精神科には1度入ったら出られない、近寄りたくないというイメージや偏見がまだ残っていますから。

90年代から向精神薬の研究が長足の進歩を遂げ、精神科の治療はまったく変わりました。ここ20年でもかなりの人に高い効果をあげています。慢性の精神病で脳に構造的な変化を認める症例には著効とまでは行きませんが、たとえば初発の統合失調症の患者さんなどは非常に薬物反応性がよく寛解を得る時代になっています。ですから、早めに受診して早期に治療することが大事です。そのためにも精神科の敷居を低くしていく必要があります。昔の精神科とは違うという事実を知ってほしいですね。

糖尿病や高血圧と違い、病気だったけどあそこの病院で治ったとは言いません。黙っているケース

が大半です。精神科を受診して治療したことがオープンに言える環境になってほしいと思います。そうすれば家族だけで抱え込んでしまう悲劇も防げる。患者さんを見守りながら地域にお返しする。そんな暖かい社会が実現するのも私たちの使命かもしれません。

#### 肥前精神医療センター DATA

- 所在地  
〒842-0192 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津160番地  
<http://www.hizen-hosp.jp>
  - 病床数  
504床
  - 精神科専門領域研修プログラム
    - ・専攻医の募集人数8名
    - ・指導医数49名
    - ・症例数(年間)
- 外来患者数 F0:2260 F1:971 F2:971 F3:2146 F4/F50:2799 F4/F7/F8/F9:2912 F6:201 その他:1041  
入院患者数 F0:565 F1:550 F2:1430 F3:707 F4/F50:282 F4/F7/F8/F9:361 F6:83 その他:204

#### 指導医の声2

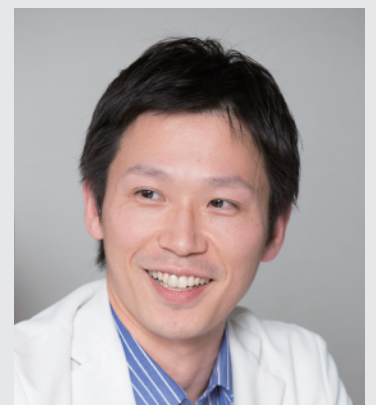
### オーダーメイドの研修が強み。双方向の症例検討会はお互い勉強になる。

当院には時代や患者さんに合わせたオーダーメイドの治療をするという土壌があります。それがレジデントの希望に応じたオーダーメイド研修にもつながっているのではないのでしょうか。

毎週開く症例検討会も双方向になるように工夫しています。通常は症例を出す人が矢面に立たされますが、クイズ形式にして発表側が「さあ、この薬を使ったらどうなったでしょう」と問いかける。すると参加者も考えて意見を言う。一方的に教えるのではなく、議論

が活発になって両方が勉強になる。研修にもレジデントが自主的に行う部分を盛り込んでいます。

当院は症例が豊富で、指定医や専門医取得に必要な症例数を十分確保できますが、資格を超えた経験を積むこともテーマにしています。多彩な臨床経験を積んで、その先につなげてほしい。たくさんの仲間がいることも財産です。刺激し合いながら、モチベーション高く切磋琢磨できる環境です。お互いに助け合いながら、自分らしいキャリアを築いてほしいですね。



肥前精神医療センター 精神科  
大坪 建



肥前精神医療センター 精神科  
野路 恵里佳

#### 専修医の声

### 仲間が多いから楽しくがんばれる。将来の見通しが持ちやすいのも魅力です。

児童精神を専門に学びたいと思い、当院を選びました。見学に来た時、非常に雰囲気がよく、先生方が優しいことに、まず感銘を受けました。専門病棟がいくつもあって精神科の全領域を網羅でき、指定医を取れることも決め手でした。

レジデントの人数が多く、同世代が10～20人いるので随分助けられています。仲間と悩みを共有できるのはありがたいですね。また、いろいろな段階の先生がいらして目先の目標と将来の見通しの両方が持てる点も

励みになります。看護師や心理士、コメディカルの人たちともつながりがあり、多くのことを教えられています。

ここに来る前は小児科と迷っていました。精神科を選んだ理由は、子どもだけでなく、支える側の大人への支援も必要だと思ったからです。親御さんの心理や精神状態の評価もしっかりやっていきたい。実際、病棟の患者さんを診て、外来に出ると見方がかなり変わります。初診も再診もじっくり時間をかけられますし、地元でない充実した環境で学べて本当によかったです。